

2008年(平成20)12月

カルメル
霊性センターニュース



238号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



第一巻

第8章 過度の親しみを避ける

1 すべてに対して慎重に

「誰かれかまわずに心を打ち明けるな」(シラ 8・19)。ただ、神に対して思慮深く、おそれをもっている人に意見を聞きなさい。考えの浅い人や、かかわりのない人とつきあうことは慎みなさい。金持ちにへつらわず、権力者の前に出たがるな。謙遜な人、素朴な人、信仰の篤い人、正直な人とつきあい、神に心を向けるために役立つことを、話し合いなさい。どんな異性とも親しくしてはならない。よい異性のためには、わけへだてなく神に祈りなさい。神とその天使たちと親しむことだけを望み、人に知られることを避けなさい。

2 なれ親しむな

誰に対しても愛徳を持たなければならないが、なれ親しむ必要はない。知らない人のよい評判を聞いて、離れている間は尊敬しているが、いざ会ってみると、不快の念を受けることがよくある。また自分とのつきあいを、相手も気に入っていると思いこんでいても、こちらの態度がよくないので相手の重荷になっていることもよくある。

心の泉



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd
——現代の十字架の聖ヨハネ—— (23)

神の光のうちに見るならば

イエスの誕生は

地と天を和解させ、

神から離れてしまった人類を

神と一つにします。



ボンヌの幼きイエス

12月ともなりますと街中ではなつかしいクリスマスの音楽、夕闇が覆う頃には光の祭典が繰り広げられるようになります。「世の光」キリストの誕生を祝うことは忘れられ、ひたすら人々は闇に輝くネオンの美しさに目を見張り、楽しくにぎやかな音楽は悲しみ、苦しみなどは存在しないかのように響きわたります。しかし、神の光のうちに見るならば、みずぼらしい馬小屋でのイエスの誕生は「地と天を和解させ、神から離れてしまった人類を神と一つにしてください」父なる神からのわたしたち一人ひとりへの贈りものです。闇夜のネオンのように輝くことはなくても、信仰のまなざし（それはわたしたちの知性にとっては闇でしかありませんが）で神の子の誕生を真に祝うことができますように。クリスマスがカウント・ダウンされていく日々、わたしたちはあらためて信仰のまなざしのもとにキリストを通してのみわたしたちがおん父と和解できる事実をかみ締め、感謝したいものです。マリー・エウジェンヌ師は言います、

イエス・キリストのうちに溢れでる命はわたしたち一人ひとりのうちにおいて、キリストの神秘体においても溢れでているのです。

霊的生活はイエス・キリストからはじまり、イエス・キリストによってその道を歩みつづけ、イエス・キリストによって終わるのです」と。

イエスよ、あなたが わたしたちのうちに置かれた恵みと

わたしたち一人ひとりに託された使命が要求することを

わたしたちが 素直に受け生きていきますように。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(41)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

10. 「私たちの日ごとの糧を今日もお与えください」(ルカ 11:3)

私は、一人のヒンズー教のグルーに、食べ物との関わり方についてたずねたことがあります。彼は私に答えました。「私たちの食事は、私たちの身体との友好関係を築く大きな機会なのです。残念なことに、その機会は、私たちの生活においてすっかり忘れられているのです。私たちは、新聞を読みながら、テレビを見ながら、ファースト・フードを食べながら、家族の記念日や結婚披露宴で、急いで、気を散らしながら食事をしています。立って食べたり、歩きながら食べたり、運転しながら食べています。私たちは食べていることに気づかずに、食べているのです。私たちの食べ方は、ほとんど身体への侮辱となっています。食事の時には、私たちは、命との交わりの中で、身体へ近づいてゆくべきなのです。私たちヒンズー教徒にとって、食事は宗教的行為であり、典礼であり、儀式なのです。私たちの多くの者にとって、それは義務のようなものですが、それ自体楽しいものです。けれどもしばしば、見苦しい早さや粗野な無視によって、台無しにされます」。

荒れ野でイエスが体験した最初の誘惑は、飢えに屈伏するようにとの誘惑でした。けれども、主はこの誘惑に、「人はパンのみで生きるものではない」と答えられました。イエスは、他のところでこう言っています。「だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種もまかず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる…… だから『何を食べようか』『何を飲もうか』…と行って、思ひ悩むな」(マタ 6:25-31)。イエスの確固たる教えは、大切なことです。彼は「朽ちる食べ物ではなく、朽ちることのない、永遠の命に至る食べ物のために働け」と言い、「私たちに必要な糧を今日与えてください」と絶えず祈るよう私たちに求められました。

経験によれば、胃が取り去られても、飢えの感情は残ることが知られています。

それは、飢えの感情は、実際は頭、すなわち脳から来ていることを意味しています。視床下部は脳の中央に位置する領域ですが、これが飢えと渇きのセンターであり、それらの感情をコントロールしているのです。病気がこれらの感情を破壊してしまうと、極端に肥満したり、痩せたりするようになります。感情のセンターは、体の体温コントロール・センターのように、体の情緒的な衝動と連携して働きます。それゆえ、一部の人は、寒い季節になるとよりたくさん食べるのです。

けれども多くの人にとって、食べてはならない理由は、この世にありません。飢えを決定するのに主な役割を果たしているのは、私たちの知性です。私たちは、食べ物や食べ物の絵を見て、飢えを感じるようになります。味覚、視覚、嗅覚、触覚は、食欲を増進させるのです。

食べたいという欲求は、食べる以前に、それと密接に関連した刺激によってしばしば引き起こされます。その基本的な過程は、条件づけです。食べることに伴う以前の刺激と、食べる行為そのものとの間に、連想が形成され、その結果、その刺激が、未来の機会に同じ食べ物を食べたいという欲求を誘発する力を獲得するのです。そしてそれが、食べたいという熱望の内容なのです。

時々、私たちは自動的に食べます。時々、一日に三回の食事という習慣から飢えを感じます。食べ物を準備している間に、例えば、軽食を取ります。それにもかかわらず、私たちは食事を三回取ることを思い出すのです。

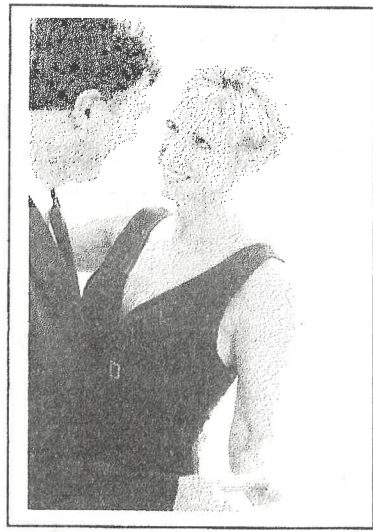
この分野の研究は、私たちの味覚が順応することを示しました。すなわち、しばらくの間、特別な味にさらされた後、感覚は、ずっと敏感でなくなるということです。他方、或る種の病気も、食欲をなくしてしまいます。

味覚を訓練することは、衝動を意識することに依存しています。意識的に食べることは、それに応えることです。意識的に食べることは、注意すること、私たちの体に、食べ物を心に留め、味わい、何よりも真に楽しむ時を与えることを意味します。このことは、けっきょく、すべての良いものの与え主である神に感謝するように私たちを導くのです。

(九里 彰訳)

ヘンリ・ナーウエンの

旅路の糧 (116)



近さとへだたりの間のバランス

人々の間の親しさは、近さと同様にへだたりを必要としています。それは、ダンスのようなものです。時々、私たちは互いに接触したり、互いに抱き合ったりするほど、近くなります。時々、互いから離れ、私たちの間の空間を、自由に動ける場とします。

近さとへだたりの間の適正なバランスを保つことは、特にパートナーの要求が、その時、自分とまったく異なっている場合、厳しさを要求します。一方は近さを望み、他方はへだたりを望みます。一方は抱かれることを望むかもしれませんが、他方は一人であることを求めます。完全なバランスはめったに起こりませんが、そのバランスに向けて正直で開かれた探求が、見るに値する美しいダンスを生み出すのです。

(0222)

依存的になること

だれかが時計をくれたとしても、それを決して身につけなければ、その時計は本当には受け取られていないのです。だれかが何らかのアイディアを出しても、それに応えないならば、そのアイディアは、真実には受け取られていないのです。だれかが友達を紹介しても、彼（彼女）を無視するならば、その友達は、受け入れられたとは感じないでしょう。

受け入れることは、一つの技術です。それは、他者に私たちの人生の一部となることを許すことだからです。それは、次のように言う内的自由を要求しています。「あなたなしには、私は私であることはできないでしょう」。心から受け入れることは、それゆえ、謙遜と愛のしぐさなのです。非常に多くの人々が、深く傷ついて来ました。それは、彼らのプレゼントが受け入れられなかったからです。よい受け取り手となりましょう。

(0404)

九里 彰訳

待降節第二主日B マルコ 1, 1-8

『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ』(マルコ 1, 3)。

「神の子イエス・キリストの福音の始め」。「始め」は、聖書本文では「アルケー」との単語が使用されていますが、時間的な始めのみではなく、まったく新しいこと、神のみが始めることができる何かを暗示しています。「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された」(1コリント 2, 9)。「福音」とは、人間が予測も、期待も、ましてや要求もできない、憐れみの神のみが発意し、実行される良いことの知らせなのです。わたしたち人間には、知らされて始めて、そのようなすばらしい現実があることを知り、この知らせに信頼して身をゆだねるとき、それまでは期待もできなかった新しい充実に生かされている自分に気付かされる、それが福音です。

「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう」と預言者イザヤが指摘する「あなた」とは、それはイエスに他なりませんし、「あなたの道」は、受肉の卑下、十字架の死を通っての復活の栄光に至る道に他なりません。洗礼者ヨハネは、イエスの誕生のみではなく、その十字架の死をもはるかに指し示す先駆者でした。

「荒れ野で叫ぶ者の声とする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」洗礼者ヨハネが整える道とは、「この世の支配者たちはだれ一人理解できなかった、十字架の知恵を把握する道です。

「罪の赦しを得させる悔い改め」。それは、わたしたちの良心が呵責を感じている自分が犯した罪を悔やむと言うよりは、神の御子の受肉と十字架の死によって始めて分かってくるわたしたちの根底的な罪の深淵、神の愛のみが赦し、新しく生き始めさせてくださることができる、罪の死の淵に気付かせ、神の赦しを懇願することに導くものです。「わたしは水であなたがたに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる」。

待降節は、イエスが幼子としてわたしたちのうちにおいてになるのを準備するのみではなく、十字架を通して栄光に入る方に従い続けて行く決心を、新たにする時なのです。

ルカ 渡辺幹夫

待降節 第3主日 (B)

(ヨハネ 1 : 6 ~ 8、19 ~ 28)

待降節は、主の到来を準備する時です；クリスマスには私たちのところに主は秘跡としておいでになります、私たちの人生の終わりには個人的においでになります、そして時の終わりには集合的においでになります。私たちが待っているキリストは私たちの一人としてすでにここいらっしやいます、どんな違いがあるでしょうか？

ひとつの「物語」があります。ある修道院が重大な危機に陥っていました。何人かの修道士が去り、新しい志願者はありませんでした、そして人々は以前のようにもう祈りや相談に来なくなりました。修道院長は一人の隠修士が森の中に孤独のうちに住んでいることを聞き、その人に相談しようと決心しました。彼は隠修士に修道院がどのように衰えてしまったか、そして今や以前の抜け殻のようになってしまっているかを話しました。年とった修道士がたった7人残っているだけでした。隠修士は修道院長に秘密があると言いました。今修道院に住んでいる修道士のうち一人は本当はメシアなのですが、この人は誰にもそうだとは気づかれないような仕方です。この思いがけないことを聞いて、修道院長は修道院に戻り、共同体会議を招集し、聖なる隠修士が語ったことを詳しく話しました。年とった修道士たちは信じられない思いでお互いを見て、自分たちのうちの誰がキリストか見きわめようとなりました。しかしその日から、自分たちが話している相手はキリストご自身であるかもしれないと知って、お互いにより大きな尊敬と謙虚さをもって扱いました。彼らはお互いにより大きな愛を示し、彼らの共同生活はより兄弟的になり、共同の祈りはより熱意に満ちたものになりました。このことは全て、彼らの一人として彼らの中にキリストが住んでいらっしやるという事実、人となった神が注意をひいてくださったことから起きたのです。

本日の福音で、洗礼者ヨハネは、メシアの到来を熱心に待っていた当時のユダヤ人たちに同じ力強いメッセージを告げようとしています。ヨハネは言っています：「あなたがたの知らない人が、あなたがたの中におられます。その人はわたしの後から来られるかたで、わたしはそのかたのはきものひもを解く値うちもありません」(ヨハネ 1 : 26-27)。イエスの時代のユダヤ人たちがイエスをメシアとして認めることが出来なかった理由は、彼らがメシアはどのように来られるかということに対して一定の考えを持っていたことにあります。メシアは神の力と権威をもって天から突然降り、イスラエルの敵を滅ぼして王国を築くことでした。メシアは神から来るのですから、人間の立場からいうと、どこから来るのかだれも知らないのです(ヨハネ 7 : 27)。イエスが他の全ての人と同様に女性から生まれて来たとき、彼らは認めることが出来ませんでした。彼はあまりに普通で、あまりに印象的でなかったのです。2000年後の今、私たちは自分たちの中にいる印象的でない態度、習慣、容貌をした普通の人たちの中にキリストを認めることが出来るでしょうか？

(Sr. Paulina)

「わたしは主のはしためです。お言葉どうり、この身に成りますように」。

天使ガブリエルは、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」と、ナザレの貧しいおとめマリアへのお告げの言葉を始めます。「おめでとう」は、原文では「喜びなさい」です。この招きは、神との契約にそむいたイスラエルが、神の祝福から見放され滅亡の闇を歩いているその時に、神が主導権を取って始められる新しい解放の始まりを告げる言葉を背景に持っています。「娘シオンよ、喜び叫べ。イスラエルよ、歓呼の声を上げよ。娘エルサレムよ、心の底から喜び踊れ。主はお前に対する裁きを退け、お前の敵を追い払われた。イスラエルの王なる主はお前の中におられる。お前はもはや、災いを恐れることはない」(ゼファニヤ 3, 14-18)。マリアへのお告げは、独りイスラエルの民が神にそむいた罰の終わりの時だけではなく、全人類、まことの道が見えなくなり、闇からより深い闇にさ迷い歩く人類を神が放置することなく、今や、イエスの十字架の死によって解放の道を開いてくださる、その時が到来したことを告げています。

マリアは、戸惑います。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに」。マリアが戸惑ったのは、おとめのまま母になることが理解できないというだけではなく、実は、人間の思いにはもっと大きな謎である受肉の愚かさの秘儀への戸惑いがあったと思われます。「いと高き方の子」、父ダビデの王座に着き、ヤコブの家を永遠に治め、その支配が終わることのない方、その方が、人間として誕生する、しかも自分のような貧しい女を通して誕生する、これほどの神の卑下への戸惑いです。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じものになりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリ 2, 5-8)。マリアがおとめのまま母となることも、この十字架の卑下を背景にして始めて把握されるべきです。また、「わたしは主のはしためです。お言葉どうり、この身に成りますように」は、受難の前夜ゲッセマネの園でのイエスの祈り、「父よ、御心なら、この杯をわたしから取り除けてください、しかし、御心のままに行ってください」(㊦ 22, 42)に共鳴します。お告げの場面でのマリアのすべては、十字架の秘儀への聖母だけの独特な参与なのではありませんか。

ルカ 渡辺幹夫

聖家族の祝日 (ルカ2:22-40)

「この子は反対を受けるしるしとして定められています。あなた自身も剣で刺し貫かれます。」(ルカ2:34, 35) 預言者シメオンは恐ろしい不吉な予感のすることばで、主を献げるために神殿にこられた聖家族に挨拶しました。この世に来られた幼子を迎え入れるとき、それは大いなる喜びのときです。希望と期待に満ちているときです。けれどもシメオンは、聖霊に息吹かれて、期待ではなく恐怖を呼び起こすことばを語りました。

「初めて生まれる男子は皆主のために聖別される。」主の律法にある通りイエスは神殿に献げられました。シメオンとアンナのように、全てのイスラエルの人々は救い主を自分の目で見る、主との出会いのときを待っていました。イエスは長い間人々が待ち望んでいたメシアです。「これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、イスラエルの誉れです。けれども反対を受けるしるしでもあります。」

(ルカ2:32, 34) マリアに予言された悲しみの剣は、神が全人類のために準備してくださった救いを成就するために必要な、キリストの完全で、唯一、類の無い十字架上の苦しみの奉献を知らせます。

新しい家族、子どもの誕生はその家族の喜びのときです。けれども聖家族が味わわれたように、どの家族の生活にも悲しみの剣が伴います。聖家族は全ての家族のひな型です。最近、教皇はシメオンの予言について話をされました。この予言の影の部分で、おとめマリアのご生涯が、神秘的にキリストの悲壮な使命に強く結ばれていたことを指摘なさいました。マリアは人類の救いのために、息子であるキリスト イエスの忠実な協力者となりました。

救い主と聖家族に出会った私たちは、罪深い者であるにもかかわらず、神の恵みによって苦勞の多い日々を生き切ることが出来ることを知りました。罪がないのに、救い主の家族は多くの困難を耐え忍びました。私たちは犠牲、労働、自己放棄をせずに聖性への召しだしを生きることはできません。幼子キリストによって私たちに与えられ、十字架上で完成された赦しが、結婚の絆で結ばれている夫と妻たちを寛い心で赦しあう愛に生きることを可能にします。この関係を深めることは心安らぐ幸せな環境を提供し、この環境は一人一人のこどもの最も深い渇きである愛の渇きを潤してゆきます。

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (20)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

風邪 (1)

私たちにとって幸いなことに、聖人によって世話され、いやされ、大切にされた少なからぬ数の病人たち自身が、彼らの経験を自ら物語ってくれています。

1580年の有名なスペイン風邪（訳注：原語では「全世界的な風邪」という表現）は、よく知られています。この風邪（訳注：風邪ではなくてインフルエンザ）は、多くの人々を犠牲にしましたが、その中に、十字架のヨハネの母、カタリーナ・アルヴァレスがいます。彼女はメディーナ・デル・カンポで死に、そこに葬られました。

このとても悲惨な年の或る日、十字架のヨハネは、ベアスの女子修道院でミサをあげていました。その時、一人の男が、「告解だ、告解だ、死にそうだ」と叫びながら教会に入ってきました。彼は祭壇の階段にひざまずき、そのまま倒れて死にしました。その日、悲痛な思いでバエサの修道院にもどった十字架のヨハネは、修道院のすべての病人に会いました。病人はみなベッドに寝ていました。彼の到着は、摂理的に彼らに知られていました。病人たちの一人は、こう言っています。「もどった時、彼は私たちがみな病気でベッドに寝ているのを見出しました。或る者は、他の人のところに行くために立ってられないので、ベッドにいました。そんな時に、彼は着いたのですが、確かなことは、彼が来なかったら、何人かは死んだであろうということです。私に関して言えば、私は確かに死ぬと思っていました。なぜなら、一口も食べるができなかったからです。彼は私のところに来て、とても悲嘆に暮れました」。

けれどもこれらすべての苦しみを背負いながら、彼は病人たちに何をしたのでしょうか。

「…その後、彼は肉の部屋に修道士を連れて行き、それを料理させました。そして彼自身がそれを運び、私たちが食欲のないのにも関わらず、従順の徳を説き、私たちに食べさせました。

(続く)

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

19. 幼いイエスの聖テレーズ (1873-1897) — その11

テレーズ・マルタンは、フランスのアランソンで、大変愛情深く敬虔な家庭に生まれた。4人の姉のうち3人は、リジュー・カルメル会における修道生活においても姉妹となった。

1888年、15才でカルメル会に入会。正式な修道名は「幼いイエスと尊き面影のテレーズ」であった。テレーズは聖人になりたいと望んでいた。他の聖人たちのように偉大なことはできないと知っていたが、それでも預言者、司祭、宣教師、使徒になって五大大陸を駆けめぐりたかったのである。ある日、彼女は自分の使命が教会の心臓の中で愛となることであることに気がつく。彼女が見出した靈的幼子の小さな道には、何でもないような小さなことをイエスに捧げることが含まれていた。彼女は自分自身の弱さそのものをイエスに捧げ、他人に気付かれることも評価されることもない小さな事柄を行う機会を探し、静かに謙遜に奉仕した。テレーズは「神のいつくしみの愛」に身を捧げた。自分が神のあわれみに頼らなければならないこと、神のあわれみは神の正義に勝るものであることを信じていたのである。彼女は神の腕の中にいる子どものように、完全に自分を神に委ねきっていた。結核が重くなってからも、長上への従順によって、自叙伝を書き記した。最も深い信仰の暗夜を体験しながらも、喜びをもって苦しみを受け、1897年9月30日に帰天。1925年列聖。1927年、聖フランシスコ・ザビエルと並ぶ宣教の保護者に上げられ、1997年、教会博士の称号を受けた。

聖テレーズの両親マルタン夫妻は、今年10月19日にリジューの大聖堂で列福された。聖テレーズは「神様は、私にこの世よりも天国にふさわしい父と母をお与えくださいました(ペリエール神学生あての手紙、1987年7月26日)」と書き残している。



幼いイエスと尊き面影の御絵を手に (1897年6月7日)

— 祈り —

おお、小さき幼子よ！ あなたは私の唯一の宝。私はあなたの神的な気まぐれに自分を委ねます。私はあなたを微笑ませること以外にはどんな喜びも望みません。あなたの幼子らしい徳と美を私の中に刻みつけ、私が天国に生まれる日、天使と聖人たちが私を見たとき、あなたの小さな花嫁であることが分かるようにしてください。

わたしの名によって父に願うものは何でも与えられる……

永遠の父よ、あなたの御ひとり子、やさしい幼いイエスさまは私のものです。あなたが彼を私に与えてくださったのですから。その神的なご幼年時代の無限の功徳をあなたにお捧げし、その御名によってお願いいたします。永遠に神の小羊に従っていく小さな子供たちの無数の群れを、天国の喜びに招いてください。

永遠の父よ、あなたは私に遺産として、神である御子の拝すべき面影を与えてくださったのですから、私はそれをあなたにお捧げし、この無限に尊い硬貨と交換に、あなたに奉獻された靈魂たちの忘恩を忘れ、あわれな罪人たちを許してくださるよう、お願いいたします。

おお、イエスの拝すべき面影！ あなたは、私たちの靈魂にご自分を与えるため、あなたのもので親しくあるよう、私たちの靈魂を選んでくださいましたから、あなたに私たちの靈魂を捧げるためにまいりました……。 **おお、イエスさま、あなたが私たちに** おっしゃるのが聞こえるように思われます。「私の姉妹たち、私の愛する花嫁たちよ、開けてください。私の顔は露で覆われ、私の髪は夜露に濡れているから」と。私たちの靈魂には、愛のことが分かります。ですから、私たちはあなたの優しいみ顔をめぐい、悪意ある人々の忘恩に傷ついたあなたをお慰めしたいのです。彼らの目には、あなたは今も隠されたもののようで、彼らはあなたを軽べつの対象として見ています。

おお、春の百合や薔薇よりも美しい面影！ あなたは、私たちの目には隠されてはいません。あなたの神聖なまなざしを覆う涙は、私たちには貴重なダイヤモンドのように思われます。私たちがその涙を集め、その無限の価値によって兄弟姉妹たちの靈魂を買い取りたいのです。

あなたの拝すべきみ口から、私たちは愛の囁きを聞きました。あなたを焼き尽くす渴きは愛の渴きと分かりますから、私たちはあなたの渴きを癒すために無限の愛を持ちたいのです。私たちの靈魂の最愛の花婿、すべての人の心にある愛が私たちのものであるとしたら、そのすべての愛はあなたのもので！ ですから、その愛をください、そして、あなたの小さな花嫁たちのもとに来て、あなたの渴きをお癒しください……。

おお、イエスの愛すべき面影！ あなたの無限の栄光を観ることのできる永遠の日を待ちながら、私たちの唯一の望みは、この地上では誰も私たちに気づくことができないように私たちも自分の顔を隠すことによって、あなたの神聖な御目をお喜ばせることです。…… **おお、イエスさま！ あなたの覆われたまなざしこそ、私たちの天国なのです！**

(「尊い面影への奉獻の祈り」より)

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された *Drink of the Stream: Prayers of Carmelites* (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(奉阜カルメル会訳・編)

垣根の葉っぱ

私は外出が多く、しかも大抵近くの“出世観音”というバス停でバス待ちをすることが多いのです。その時、必ずといっていい位、毎回目に入るのは、あの広い大きな〇〇証券会社の独身寮をとり囲む垣根の木々です。確かに常緑樹で、年中緑を保っているのですが、この木々にも四季があつて、春の芽ばえの時期には、その小枝の先端に沢山の新芽が誕生します。それは赤くて艶があり、目を追ってみるみる大きく育っていきます。そして5月ともなれば、どの葉もツヤツヤと光って美しい木の葉になり、生き生きとした生垣をかもし出してくれるのです。手を出してそつと撫でてみると、これまたつるつるして若さそのものといった感じです。遠目からは、何のことはない、一般に見られる生垣に過ぎませんが、このツヤとハリを通して私はいつも“いのち”をもらうのです。若い希望に満ちた、しかも柔軟性に富んだ若葉に、“生きるエネルギー”を感じます。何と素晴らしい神様の傑作でしょうか！！そのうち、夏が終わり秋が近づいてくると、この葉っぱ達、さすがに夏の暑さが身に応えて、春の“つや”は何処へやら。小枝にブラ下がっているのもきついで、一寸した秋風に、ハラハラと道路に落ちてくるのです。バス待ちの間、時々カサリという音を立てながら……

そして道を急ぐ人々に踏まれてしまいます。しかしこの樹木たちは常緑樹なので、全部落葉するわけではありません。大半が夏の暑さで痛んだまま、かろうじて枝にしがみついているのもあり、12月も終わる頃ともなれば、緑の葉こそでないものの、新芽の盛り上がりみたようなものが出始めます。まさに新しい生命の誕生、“芽ばえ”とも言いましょうか。しかし本当の春が来るまでは、忍耐強く、人目に見えないような存在を保っているのです。枯葉は箒で掃かれて、焚き火になっていきました。その灰は、次の世代の新しい肥料になるのです。

長年バスを利用していますと、こんな、物語にもならない 小さな動きを感じさせて頂けるのです。誕生→幼少時代→自分らしく働く大人時代→老齢化して表舞台には出場しないけれど、陰の力で若い世界に奉仕する……こんな景色を見て、私はしみじみ感じさせられました。知恵、自由意志何ももたない植物も、神様の導きによってこんな素晴らしい生き方があるのなら、まして私達人間は、植物に劣る筈はありません。その意味で、自分自身はいま、人生のどの位置にいるのだろうか。植物でさえこのようなすばらしい一生を終えるなら、私たち人間それぞれは一体どの辺にいらっしゃるのでしょうか？バス待ちの間に考えさせられた一場面でした。 お告げの姉妹会 Sr. 熊田 照子



聖母子 15世紀 ステファン ロフナー ケルン教区美術館

哲学者 鷺田清一の著書に『「聴く」ことの力 — 臨床哲学試論』というのがあります。「聴く」ことについての哲学的研究ではなく、他の人に触れたい、伝え合いたいという思いにつき動かされている「聴く」こととしての臨床哲学なのだと著者は云います。

臨床哲学とは耳慣れないことばですが、本書の中にある次のような言葉で、おおよその輪郭がわかるかもしれません。

哲学を臨床という社会のベッドサイドに置いてみて、そのことで哲学の社会における試みを探ってみたい。哲学はこれまで喋り過ぎてきた……語ることに聴く事を学ばねばならないのではないか。考えてみたいのは「聴く」ということの意味と力についてである。

自分のことばを受けとめて貰える経験、自分のことばを聴きとって貰える経験が人にとって、特に苦しみの中にある人にとっては大きな力になるということ、その「聴くことの力」を信じて臨床哲学の核に据えることができないかと思う。

全編を通して全てがじっくりと、ゆっくりと心の深部に染み入り働きかけてくる、静かな静かな本で、私がいつも傍らにおく大切な一冊です。先日、必要があってパラパラと読み返したのですが、今あらためて「聴く」ということに心を留めています。

私事になりますが、私は昨年3月の辞任までの四半世紀余りを「いのちの電話」という社会福祉法人のボランティア団体に携わってきました。「いのちの電話」とは、ひと言で云えば電話を通して悩み苦しむ人の隣人となるというのでしょうか、いわば「聴く」ことで人と人とが関わり合い、交わり合い、よりよく生きると云っていいかと思えます。

昨今、新聞テレビなどで、自殺の増加が大きな憂慮として報ぜられ、又驚愕するしかないような痛ましい犯罪事件では、加害者の孤立の深さが問題視されるなか、必然のように「聴く」という機能が今人々に意識されてきているように思えます。

わたしの話をきいてください、わたしを受けとってください、あなたが傍にいてください、という心の奥底からの願いは如何なる人にとっても常に望んでやまない真実であるでしょう。

「いのちの電話」の電話室には、一日に70件ほどの電話がかかります。

「聴く」「語る」という一対一の相互関係の中で名前も知らない人との間に心が触れ合い通い合って、互いに生涯忘れ得ぬよろこびの出会いとなることは、一度ならずです。このような関係を生み出す「聴く」ということの根幹を考えてみると、思いつくものを列挙するだけではすまない底の深さをもっていますが、例えば相談員として習得した知識、技法を越える何かがあること、互の身に負っている具体的な事柄を抱きつつもそれを越える何かがあること、あらゆる条件を絶したただの人とただの人同士になり得べき何かがあること、そうでありながらしかし尚、相談員としての役割が全うされていること。

「聴く」とは、おききします、きき置きます、というような同調のぼんやりした受け身ではなく、一身をあげての確とした関わりであり受動（受けとる働き）の心の誠実さというようなものが要るのではないかと考えています。

鷺田清一は「注意」をもって聴く耳が先ず初めにあって、そこに語ることばが生まれてくるのだと説きます。更に『「注意」は最も高度の段階では祈りと同じものである』というシモーヌ・ヴェイユの言葉を取り上げて、ことばは聴くひとの「祈り」そのものであるような耳を俟って初めてぼろりとこぼれ落ちるように生まれてくると、読む者に静かに語りかけます。

この語りかけを静かに聴きいれるとき、私の耳に遥か彼方から届いてくるかのように聖書の声思い出すのです。

「今日 神の声をきくなら 心をかたくなにはならない」

「はい ここにおります ききます 主よお話しください」

「主よどうかわが声をきき あなたの耳をわが願いの声に傾けてください」

「注意」という「祈り」をもって聴く耳を私は今日、もっているでしょうか私の耳は今日、何を聴くでしょうか。

いのちの言葉 11月

わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。(ルカ 9・23)

世の中で生活しているとはいえ、私たちはそこで水中の魚のように自由に泳ぎ回ってもいいとは、思わないでください。

ラジオやテレビを通じて、世の中が家に入ってくるとはいえ、どんな番組でも見たり聞いたりしていいとは、思わないでください。

あちこち出かけた先で、どんな広告を見ても、本屋や駅の売店で、見境なくどんな出版物を買っても、なんということはない、とは思わないでください。

世の中で生活しているとはいえ、安易な生き方やモラルに反すること、中絶や離婚、憎悪や暴力、盗みなど、世のどんな生き方も、自分のものにしていいとは、思わないでください。

それは、できないことです。たしかに私たちは世の中で生活しており、それは誰の目にも明らかですが、私たちは「世の者」¹ではないからです。

ここで大きな違いが生じてきます。私たちは、「世のもの」ではなく、「心の中の神の声が語ること」で養われる人々の群れに属する者となります。神は誰の心の中でも語っておられ、私たちがその声に耳を傾けるなら、この世とは違うもう一つの世界に入っていくでしょう。そこは、真の愛、正義、清さ、温和、清貧を生き、自己コントロールが実践されている世界です。

多くの若者が、インドなど東洋に逃げていくのは、なぜでしょうか。静けさを見出し、その地の霊的偉人たちの秘密をつかむためでしょう。長年にわたる内面的自己節制により、こうした偉人はまわりに愛を放

ち、出会う人みなに感銘を与えます。

若者たちの行動は、あまりの世の騒がしさに対する、当然の反応でしょう。私たちの内や外の騒音は、神の声に耳を傾けるための静けさを、覆ってしまいます。

でも、キリストが二千年前から「自分を捨てなさい」と言っておられるのに、人々はわざわざインドまで出かけていかねばならないのでしょうか！

安楽で平穩無事な生活は、キリスト者のもではありません。私たちがキリストに従おうとするなら、キリストはいつも今も、「自分を捨てる」ことをお求めになります。

世は、あふれる川のように、私たちを飲み込もうとします。私たちがその流れに逆らって歩まねばなりません。世は、キリスト者にとっては密林のようで、足の踏み場を見定める必要があります。では、どこに足を置けばいいのでしょうか。キリストが世におられた時に残された足跡、彼のみ言葉の中に、です。キリストは今日も、私たちに言っておられます。

わたしについて来たい者は、自分を捨て...

このように生きる時、私たちは軽蔑され、無理解、嘲笑、中傷を受け、孤立することでしょう。面目を失うのを受け入れ、自分に都合のよいキリスト教は後にするよう、招かれるでしょう。

でも、それだけではありません。

わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたし

¹ ヨハネ 17・14 参照

に従いなさい。

望む、望まないにかかわらず、苦しみはすべての人に、ですからあなたにも訪れます。大小の苦しみが、毎日やってきます。

こうした苦しみを避けて通りたいですか？反抗したくなったり、悪態をつきたくなったりしますか？だとしたら、私たちは、キリスト者とは言えないでしょう。

キリスト者は、涙を流しつつも、十字架を愛し、苦しみを愛します。苦しみの価値を知っているからです。人類を救うための無数の方法の中から、神が苦しみを選ばれたのは、決して無意味なことではありません。

しかし、イエスは十字架を担われ、釘づけになられた後、復活されたことを思い起こしましょう。

真のキリスト者として生きる時に起こる苦しみや、生活の中で出会うすべての苦しみを、無意味なものともみなさず、愛をもって受け入れるなら、私たちにも復活が訪れる²でしょう。そして十字架は、それまで味わったことのない喜びへと私たちを導く道であることを、地上にいる時から経験するでしょう。私たちの霊的な命は成長し始め、神の御国は、私たちの内で現実になってゆくでしょう。外の世界は目の前から少しずつ姿を消し、何の価値も持たなくなるでしょう。もう私たちは誰のこともうらやむことがないでしょう。

こうして私たちは、キリストに従う者と言えるようになるでしょう。

わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。

私たちは、現代の人々をさいなむ無数の傷に対する光、愛になれるでしょう。私たちの従ったキリストが、そうでおられるように。

キアラ・ルービック

「いのちの言葉」(1978年7月)「Essere la tua Parola」(1980年ローマ刊) P67-69より

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

私が通っている専門学校のイベントでドラマのCDを作ることになり、みんなそのための準備を始めました。私は、キャラクターのデザインをするように言われ台本を見せてもらいました。するとその中にあまり良くないシーンがありました。すぐに心の中で「これは良くない」と思いましたが、徹夜までして作ってくれた彼女の苦勞を思うと、言うべきかどうか迷いました。でもやっぱり勇気を出して思い切って伝えました。彼女からは「他にいいアイデアは無いから」という返事が返ってきました。このまま進んでしまったらどうしようと思って、教会に行き祈りました。ちょうどその日の福音は「信仰の薄いもの、なぜ疑ったのか」でした。私は神様を信じようと思いました。その後出来上がった台本を見ると、良くない部分は消えていました。(長崎・M)

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

² ヨハネ 6・40 参照



ゆるやかに冬枝を延ばす桜道角を曲りて騒音の
来も

世相とふ言葉のひびきことさらに重さを持ちて

冬へと向かふ

凝りの巢を宿生木のごともやもやと肩の辺りに
背負ひてをれり

故・クララ 密本 延枝 さまの歌集「オルゴール」より

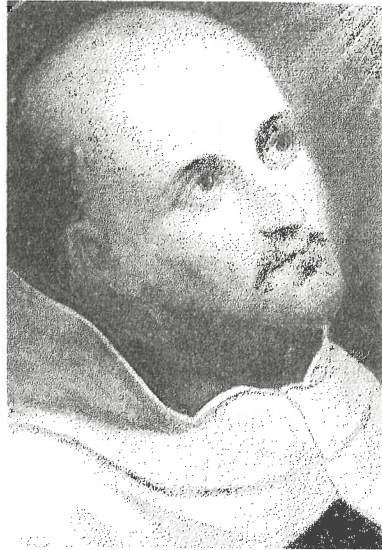


カルメル会の企画案内



十字架の聖ヨハネの祭日 ミサのご案内

12月15日（月）10時



「どこにお隠れになったのですか？」

16世紀ヨーロッパ社会の大きな動乱期に、十字架の聖ヨハネはキリストのみ顔の光を探しながら生き抜き、闇の中を導く光の道を教会に示しました。「キリストのみ顔の観想」へと呼びかけられる現代、十字架の聖ヨハネをミサの中で記念し、神不在の世界の闇の中に、真実に神を探す道をたどりましょう。

上野毛カルメル会修道院

158-0093

世田谷区上野毛 2-14-25

(東急大井町線「上野毛」駅下車)

上野毛靈性センター '08年11月~'10年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読(毎回土曜日 夕食~日曜日16時) 大瀬高司神父

- ① '08/11月29日~30日
- ② '09/ 1月24日~25日
- ③ 5月16日~17日
- ④ 7月25日~26日
- ⑤ 9月 5日~ 6日
- ⑥ 11月28日~29日
- ⑦ 2010/ 1月23日~24日

2. 奉獻生活者のための黙想会

2008年

D 12月26日(金) 夕食~09/1月4日(日) 朝 中川博道神父

2009年

- A 8月10日(月) 夕食~ 8月19日(水) 朝 中川博道神父
- B 8月22日(土) 夕食~ 8月31日(月) 朝 松田浩一神父
- C 11月 9日(月) 夕食~11月18日(水) 朝 松田浩一神父
- D 12月26日(土) 夕食~ '10/1月4日(月) 朝 中川博道神父

3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日 10時~16時)

年間共通テーマ《祈りを深める》

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1月 8日 | 神の新しい創造 | 松田浩一神父 |
| 3月12日 | 共に苦しむ神 | 中川博道神父 |
| 5月28日 | キリスト者の日々の祈り | 松田浩一神父 |
| 7月 9日 | イエスは祈られた | 中川博道神父 |
| 9月10日 | 苦しみの中の祈り | 今泉 健神父 |
| 11月26日 | ミサの祈り | 今泉 健神父 |
| 2010/ 1月28日 | 主の祈り | 松田浩一神父 |

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時~16時)

'08/12月12日	十字架の聖ヨハネの中のキリスト	松田浩一神父
'09/2月13日	聖ヨゼフ	ベルナルド神父
4月17日	御復活のラウレンシオ	中川博道神父
6月19日	カルメル会の聖人達とイエスのみ心	松田浩一神父
10月9日	アビラの聖テレジア	今泉健神父
12月11日	十字架の聖ヨハネ	ベルナルド神父
2010/2月12日	聖エリア	中川博道神父

5. 一般黙想会 (毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

'09/2月7日~8日 中川博道神父

6. 「社会人のための心の休息」一日常のキリスト教霊性を求めて一

(毎回金曜日 20時~ 土曜日 15時) 新しい企画

中川博道神父・松田浩一神父

- ① 4月17日(金)~18日(土)
- ② 5月8日(金)~9日(土)
- ③ 6月19日(金)~20日(土)
- ④ 9月11日(金)~12日(土)
- ⑤ 10月23日(金)~24日(土)
- ⑥ 11月6日(金)~7日(土)
- ⑦ 2010/1月29日(金)~30日(土)
- ⑧ 2月26日(金)~27日(土)

尚、この企画は社会人(働いている人)の霊的・心的回復と修養を目的として、
 霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも
 気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に
 申し込んでください。

7. 青年黙想会 (男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

5月29日(金)~31日(日) 17時受付
 11月21日(土)~23日(月) 16時受付

8. 召命黙想会 (男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

7月4日(土)~5日(日) 15時受付

9.大祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】・・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

'09 4月9日(木)～12日(日) 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】・・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

'08 12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》

'09 12月24日(木)～25日(金)《講話なし、夕食なし》

10.特別黙想会 伊従信子NDV

5月22日(金)20時～24日(日)16時(22日は夕食を済ませてご参加ください)

10月10日(土)20時～12日(月)16時(10日は夕食を済ませてご参加ください)

11.待降節黙想会

'08/12月5日(金)20時～7日(日)16時(5日は夕食を済ませてください)

指導：中川博通神父

'09/12月4日(金)20時～6日(日)16時(4日は夕食を済ませてご参加ください)

指導：カルメル会士

12.四旬節黙想会

09/3月6日(金)20時～8日(日)16時(6日は夕食を済ませてご参加ください)

指導：今泉健神父

13.「カルメルの靈性に親しむ」黙想会 中川博道神父

09/3月19日(木)夕食～21日(土)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの
でなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2008年～2009年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

了 9月30日	了 9月26日
了 10月21日	了 10月24日
了 11月25日	11月28日
12月16日	12月19日
2009年	2009年
1月20日	1月23日
2月17日	2月20日
3月24日	黙想会 3月19日(木)20時から 3月21日(土)17時まで

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

十字架の聖ヨハネの中のキリスト

「壹」の博士といわれる十字架の聖ヨハネは、常にキリストに従った人でした。この黙想会の中で、彼の中でどのようにキリストを深めていったかを触れることによって、私たちのキリストを深めるヒントを見てみることにします。

2008年12月12日（金曜日）10時～16時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

会費：3500円

持参するもの：ノート、筆記のみ



お問合せ・お申込みはTEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

C.Y.C. (カルメル・ユース・クラブ)

若者の集い

カルメルの靈性 (スピリチュアリティ) の中で
祈りと分かち合いのひと時をすごしてみませんか…

日 時 : 2008年 12月13日 (土)、12月27日 (土)
2009年 1月10日 (土)、1月24日 (土)

午後7時 ~ 9時15分 (9時からカルメル会士とともに「寝る前の祈り」)

対 象 : 35歳までの 青年男女

内 容 : 「聖書」「カルメルの聖人の著作」等の分かち合い、祈り。

場 所 : 上野毛教会 信徒会館ホール 東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩7分
(世田谷区上野毛2-14-25)

※参加の申込みは不要です。お問合せに関しましては、下記までお願いいたします。

※カルメル会の各種ご案内は、ホームページにて。 <http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/>



男子跣足カルメル修道会 上野毛修道院 (松田浩一神父)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

[E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp

[Fax] 03-3704-1764 [Tel] 03-3704-2171

宇治聖テレジア修道院(黙想)

1. 聖書深読

一泊二日(午後5時～午後4時)

1月17日(土)～18日(日)	新井延和神父
3月21日(土)～22日(日)	渡辺幹夫神父
5月 9日(土)～10日(日)	新井延和神父
7月 4日(土)～ 5日(日)	九里彰神父
9月 5日(土)～ 6日(日)	新井延和神父
11月14日(土)～15日(日)	中川博道神父

1日(午前10時から午後4時)

‘08/12月13日(土)	新井延和神父
‘09/ 2月21日(土)	新井延和神父
4月18日(土)	渡辺幹夫神父
6月13日(土)	新井延和神父
10月31日(土)	九里彰神父
12月12日(土)	新井延和神父

2.水曜黙想(午前10時～午後4時)

‘08/12月17日 十字架の聖ヨハネ	渡辺幹夫神父
‘09/ 1月 7日 一年の歩み	アダミニ神父
2月18日 聖ヨセフ	ベルナルド神父
3月11日 赦しの秘跡	新井延和神父
4月22日 復活	渡辺幹夫神父
5月27日 聖霊	長岡幸一神父
6月30日 聖パウロ宣教師	九里彰神父
7月15日 カルメル山の聖母マリア	九里彰神父
9月23日 十字架の神秘	新井延和神父
10月14日 完徳の道	渡辺幹夫神父
11月 4日 聖なる冒険	Sr.パウリン
12月10日 暗夜	中川博道神父

3.四旬節黙想（午後5時～午後4時）

3月7日（土）～3月8日（日）

九里彰神父

4.待降節黙想（午後5時～午後4時）

‘08/12月6日（土）～7日（日）

新井延和神父

‘09/12月5日（土）～6日（日）

九里彰神父

5.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）

9月30日（水）～10月1日（木）

伊従信子師

6.一般のための黙想（午後5時～午前9時） ※修道者も参加可

4月29日（水）～ 5月2日（土）

渡辺幹夫神父

7.召命黙想会（午後4時～午後5時）対象：40歳以下の青年男女

5月5日（火）～ 5月6日（水）

渡辺幹夫神父

8.奉獻生活者のための黙想（午後5時～午前9時）

‘08/12月27日（土）～1月5日（月）

新井延和神父

‘09/ 8月2日（日）～8月11日（火）

渡辺幹夫神父

8月18日（火）～8月27日（木）

九里彰神父

10月17日（土）～10月26日（月）

中川博道神父

12月26日（土）～1月4日（月）

新井延和神父

9.青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）

‘09/11月8日（日）

九里彰神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」NO.329 (2008年夏号)「今日の靈性」

- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (10) …高橋正行
愛は愛を呼ぶ …中川博道
十字架のヨハネ講話 (11) …フェデリコ・ルイス
愛で生きる (9) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (6) —夫亡き後のギット …伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入りたいきさつ」(1) …須沢かおり
「小さい道」の巡礼者 (1)
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (21) —希望の翼 …伊従信子
神の愛・人の愛 —共生・共依存など …谷口正子
愛の断章 (8) …奥村一郎

雑誌「カルメル」NO330 (2008年秋号)「今日の靈性」

- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (11) …高橋正行
マリアの旅 (1) —マリアと共に聴く …中川博道
十字架のヨハネ講話 (12) …フェデリコ・ルイス
今日の歌 (1) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (7) …伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入りたいきさつ」(2) …須沢かおり
「小さい道」の巡礼者 (2)
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (22) …伊従信子
ひとつの村が消える …森みさ
愛の断章 (9) …奥村一郎

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費 (年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356)

降誕祭のミサにあずかるための黙想

- * 日時：12月24日（日）夕食なし～25日（月）朝食後10時まで
24日（日）は、午後3時より入室出来ます。
講話は、ありません。前夜のミサよりご降誕の主日にかけて
主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過ごしましょう。
費用： ¥4000

- * お問合せ、お申し込みは 上野毛聖テレジア修道院（黙想）
電話：03-5706-7355・Fax.03-3704-1764



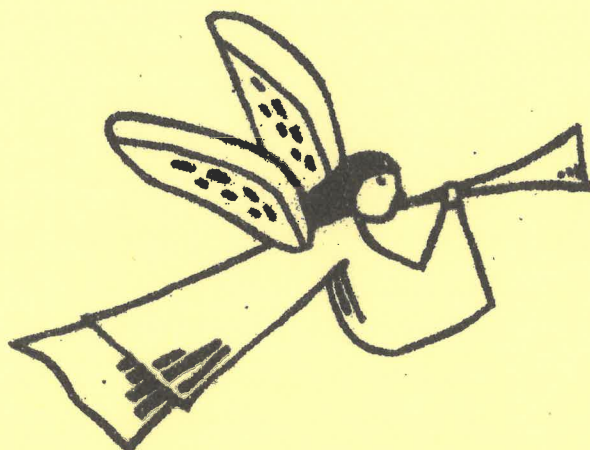
カトリック上野毛教会降誕祭ミサ

- 12月24日（水） クリスマスミサ
 - 19：30 子どもたちと共に
 - 21：30 クリスマスキャロル
 - 22：00 荘厳ミサ
 - 0：00 静かなミサ

- 12月25日（木） 主の降誕ミサ
 - 7：00
 - 10：30
 - 18：00



諸所の企画案内



朝日カルチャーセンター

心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

聖書に読むキリスト降誕の神秘

講師 カルメル会司祭 九里 彰

「教会でもクリスマスをやりますか」という笑い話もあるように、戦後、クリスマスは日本の歳時記の中にすっかり定着しました。デパートの華やかな飾りつけが人々の目を引き、さまざまなクリスマス・ソングが街に流れます。家庭では、ツリー、ケーキ、プレゼントは欠かせないものとなっているでしょう。けれども、肝心のキリストの姿はどこにも見当たらず、サンタ・クロースが主役というのが実情ではないでしょうか。これも、きわめて象徴的です。クリスマスがキリストの過越しの神秘と共に、キリスト教信仰の根幹に関わる神秘なのだということは、ほとんど意識されていません。今回は、聖書の誕生の場面に光をあてながら、この降誕の神秘を皆さまと共に、思いめぐらしたいと思います。
(講師・記)

〈講師紹介〉 九里 彰 (くのり・あきら)



上智大学在学中、第9回サンケイ・スカラシップ奨学生としてミュンヘン大学へ留学。1997年カルメル会司祭となる。その後、アヴィラのカルメル会国際神学院およびマドリッドのコミッサス大学で霊性神学専攻課程を卒業。現在、カルメル会宇治修道院院長、養成担当。訳書にH・U・フォン・バルタザール著『過越の神秘』(サンパウロ)

- 日 時 2008年11月30日〈日曜日〉 13:00~15:00
- 場 所 新宿住友ビル7階 朝日カルチャーセンター (裏面参照)
- 受講料 3,400円(税込み)

[お申し込み方法]

①電話かインターネットでご予約下さい。払込用紙をお送りします。

※講座名を必ずご指定下さい。

②コンビニエンスストアから受講料をお振込み下さい。

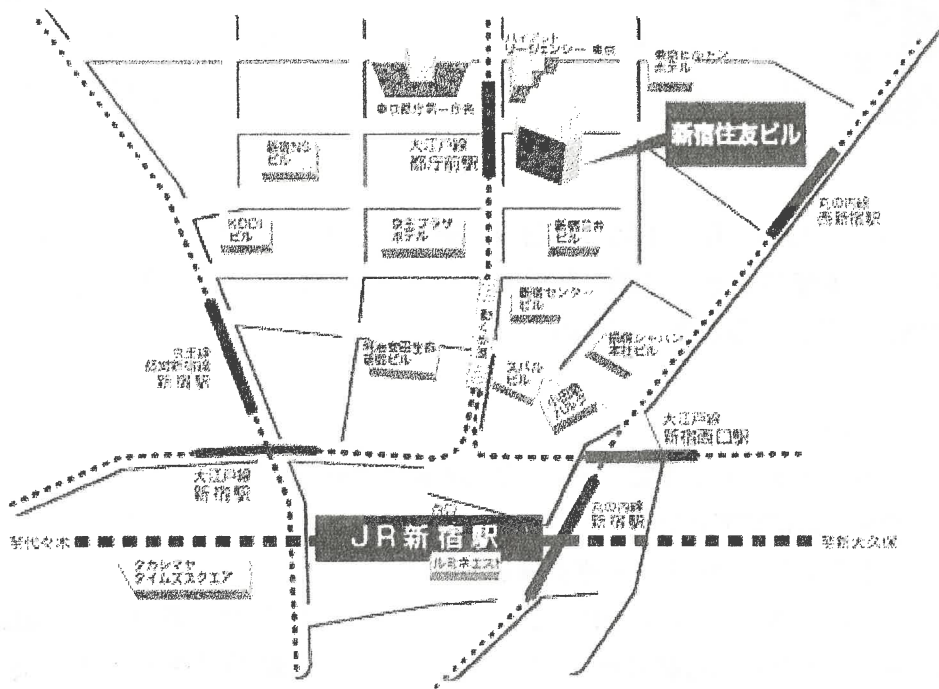
受領証は当日ご持参の上、教室受付でご提示下さい。ご送金後から当日まで、特別の変更がない限り、弊社から連絡は差し上げません。また、日曜・祝日をのぞいて、新宿住友ビル4階受付でもお申し込みいただけます。

[お問い合わせ]朝日カルチャーセンター通信講座 TEL.03-3344-2527(直通)
〒 163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル私書箱 21 号
ホームページ <http://www.asahiculture-tsushin.com>

※講師の病気や、受講者が一定数に達しない場合などはやむを得ず講座を延期または中止することがあります。お申し込みの際にご記入いただく皆様の個人情報は、講座運営や弊社からの各種お知らせ、講座企画の内部資料などに使用させていただきます。

〈会場へのご案内〉

朝日カルチャーセンター（新宿住友ビル内）は、JR、小田急線、京王線、西武新宿線など、いずれも「新宿駅」下車、新宿駅西口広場から徒歩8分です。また、地下鉄丸の内線、“西新宿駅”から徒歩5分、都営地下鉄大江戸線「都庁前駅」から徒歩1分となります。なお、新宿駅からお越しの場合は、地下道をご利用いただくと分かりやすくなっております。



内観黙想の予定表

naikan introspection

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

☆ 2008年度 ☆

了	H1	08・08・18 (月)	2時から	08・24 (日)	2時まで	姫路仁豊野・マリア
了	P3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
了	K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	Y3	08・10・07 (火)	2時から	10・13 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
了	N2	08・11・04 (火)	2時から	11・10 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	P4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	O1	08・12・23 (火)	2時から	12・29 (月)	2時まで	長野・大鹿村・草々庵

☆ 2009年度 ☆

	P1	09・01・10 (土)	2時から	01・16 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K1	09・01・28 (水)	2時から	02・03 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	Y1	09・02・18 (水)	2時から	02・24 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	K2	09・03・04 (水)	2時から	03・10 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	P2	09・03・21 (土)	2時から	03・27 (金)	2時から	兵庫・売布・女子ご受難会
	F1	09・04・25 (土)	2時から	05・01 (金)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	M1	09・05・21 (木)	から	05・28 (木)		盛岡・変則的な計画。仔細は後日
	K3	09・06・08 (月)	2時から	06・14 (日)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N1	09・06・24 (水)	2時から	06・30 (火)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	F2	09・07・10 (金)	2時から	07・16 (木)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	Y2	09・07・22 (水)	2時から	07・28 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	O1	09・08・23 (日)	2時から	08・29 (土)	2時まで	長野・大鹿村・草々庵
	P3	09・09・12 (土)	2時から	09・18 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	Y3	09・10・07 (水)	2時から	10・13 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	K4	09・10・21 (水)	2時から	10・27 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N2	09・11・02 (月)	2時から	11・08 (日)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	F3	09・11・16 (月)	2時から	11・22 (日)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	P4	09・11・28 (土)	2時から	12・04 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K5	09・12・09 (水)	2時から	12・15 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

2008年度真命山祈りの集いのご案内

年間テーマ：「聖霊による祈り」

祈りの集い(午前10時～午後2時30分)

●12月11日 霊と花嫁が言う：『主よ、来てください』



指導者：フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)

※個人またはグループでの黙想会や研修会も
研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

リーゼンフーバー神父 講座・集い 案内

2008～2009年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。

坐禅会

- 月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

接心

- 4月28日(月)20時30分～5月5日(月)13時
6月20日(金)20時30分～22日(日)13時
8月9日(土)20時30分～16日(土)7時30分
10月29日(水)20時30分～11月3日(月)13時
2009年2月21日(土)8時30分～22日(日)15時30分 上石神井。5400円程度。
● 5月31日(土)13時～6月1日(日)16時
8月1日(金)17時30分～7日(木)13時 宝塚市



ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全体、祝日は休み)

黙想

- 「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア聖堂
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み、8月26日は上智大学内クルトゥルハイム聖堂。
12月25日(木)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全体、祝日は休み)
●通う霊操 8月23日(土)～8月31日(日) 18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

祈りの集い

- 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月12日、5月10日、6月7日、7月12日、8月9日、9月6日、10月14日、11月3日、12月13日、
2009年1月10日、2月7日、3月14日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

黙想会

6月14日(土)10時～15日(日)15時、9月13日(土)10時～15日(月)14時、12月6日(土)10時～7日(日)15時(東村山)、2009年1月31日(土)10時～2月1日(日)15時、上石神井。1泊5400-5600円程度。

アガベ会

下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
4月19日(土)、6月28日(土)、10月12日(日)、2009年1月25日(日)

クリスマス会

12月20日(土) 16時30分 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時 岐部ホール。要申し込み。

クリスマスのミサ

12月23日(火) 14時～ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

問い合わせ・連絡先

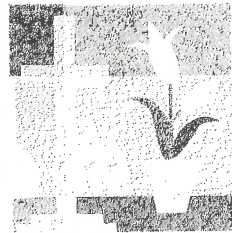
クラス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html

リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2008年～2009年

日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

各回のテーマ

- 12/5 愛の心—キリスト教の本質
- 12/6～7 黙想会（東村山）
- 12/12 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う
- 12/19 希望を持つ勇氣—未来に向かって歩む
- 12/20 クリスマスパーティ（16時30分マリア聖堂、18時岐部ホール）
- 12/23 クリスマスのミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）



リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2008年～2009年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

各回のテーマ

- 12/2 「イエス」 受難による救い—イエスの救済的役割
- 12/6～7 黙想会（東村山）
- 12/16 死からの命—復活の認識・経験・理解
- 12/20 クリスマスパーティ（16時30分マリア聖堂、18時岐部ホール）
- 12/23 クリスマスのミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）

《場所・お問い合わせ》

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール
電 話 03-3263-4584

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

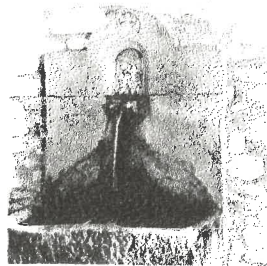
カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2008年12月6日(土)

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時 ～ 午後5時30分位まで
講話・祈り・分かち合い

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

(メールアドレスが変更になりました)

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きること、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 08年12月27日(土)～09年1月4日(日)
- ② 09年2月20日(金)～2月28日(土)
- ③ 7月23日(木)～7月31日(金)
- ④ 9月1日(火)～9月9日(水)
- ⑤ 10月17日(土)～10月25日(日)
- ⑥ 12月27日(日)～10年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ⑦ 1月16日(金)～1月18日(日)
- ⑧ 2月6日(金)～2月8日(日)
- ⑨ 2月20日(金)～2月22日(日)
- ⑩ 4月3日(金)～4月5日(日)
- ⑪ 4月24日(金)～4月26日(日)
- ⑫ 5月8日(金)～5月10日(日)
- ⑬ 6月12日(金)～6月14日(日)
- ⑭ 6月26日(金)～6月28日(日)
- ⑮ 10月2日(金)～10月4日(日)
- ⑯ 10月23日(金)～10月25日(日)
- ⑰ 11月6日(金)～11月8日(日)

⑱ 12月 4日(金)～12月 6日(日)

⑲ 12月 11日(金)～12月 13日(日)

この期間、黙想会が行われている場合があります。

C. 研修と祈り：【自己の成長と祈りへの道】

(20) 5月 19日(火)～5月 24日(日)

(21) 9月 29日(火)～10月 4日(日)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 講話 黙想

(22) 5月 27日(水)～6月 3日(水) 九里 彰 師 (加礼会)

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・プロトニヤック (カノール宣教師) 安井 昌子 (ノートルダム教育修道女)
菊池 陽子 (ノートルダム教育修道女) 松本 佳子 (ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 15名です。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の 15時から 16時 45分まで。
問い合わせは、電 話 または、E-メールを ご利用ください。



食堂より琵琶湖を望む

奥村一郎

全9巻 選集

四六判・上製・平均240頁 各巻定価 2,100円
オリエンズ宗教研究所

深い信仰と豊かな靈性、
透徹した知性が織り成す
奥村神学の全貌

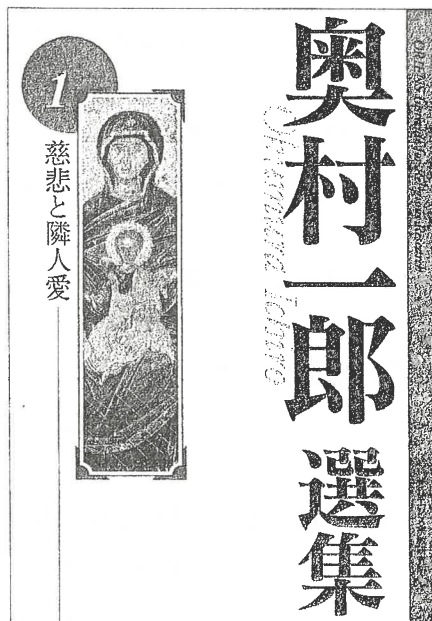
祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禪との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の靈性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の靈性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。

——著者による「刊行にあたって」より



奥村一郎 ● カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学文学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。



〔全9巻の主な内容〕

第1巻 慈悲と隣人愛 (解説) 西村憲信 刊行済
カトリックから禪へ／小事と瑣事／禪とキリスト教における靈的修行

第2巻 多文化に生きる宗教 (解説) 橋本裕明 刊行済
大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ

第3巻 日本の神学を求めて (解説) 小野寺 功 刊行済
日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」

第4巻 日本語とキリスト教 (解説) 阿部仲麻呂 刊行済
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ

第5巻 現代人と宗教 (解説) 鶴岡賀雄 刊行済
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育

第6巻 永遠のいのち (解説) 八木誠一 刊行済
嬰兒復甦／人間の栄光と悲慘／信仰と苦しみ／十字架の秘義

第7巻 カルメルの靈性 (解説) 高園泰子 刊行済
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレズと東洋的靈性

第8巻 神に向かう〈祈り〉 (解説) 高橋重幸 刊行済
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者

第9巻 奉獻の道 (解説) 宮本久雄 刊行済
清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の靈性

順次刊行中 2008年6月完結予定

リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

記念御絵



* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

- A. 6cm×10.5cm (¥30)
- B. ハガキ (¥100)
- C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにて
サイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、九里^{くのり} 彰神父宛にお願いいたします。i住所が変わります！
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院
Tel(0774)32-7456 Fax(0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください！

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

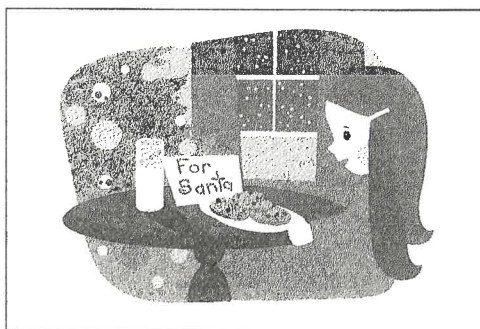
「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



編集後記

今年も、クリスマス・シーズンがやってきた。日本では、アメリカの影響か、「メリー・クリスマス」と挨拶することが多い。「楽しいクリスマスを」というところだろうが、先日、奥村一郎神父の著作を読んでいたら、「よろこび」と「たのしみ」が対比されていた。「よろこび」が「愛のあふれ」であるのに対し、「たのしみ」は「欲求の充足」であると言う。前者はみずからを与えたいという愛の欲求から生まれ、「たのしみ」を犠牲にすればするほど、深い「よろこび」がもたらされるのに対し、後者は「五官の欲求」の充足であって、自己の「たのしみ」を求めることに終始する。

日本のクリスマスが、キリストのまことの平和、よろこびを伝えるものとなりますように。

(P. 九里)

